

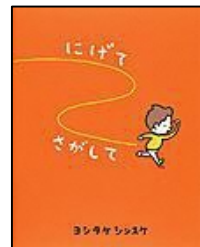
京丹後市立図書館

2026年度

おすすめの本

中学生

『にげてさがして』（ポプラ社）



ヨシタケ シンスケ/著

きみの足は、「やばいものからにげるため」についている。そしてもうひとつの役目は、「きみを守ってくれるひと」のところにいくこと。にげることで、新しい可能性に出会うお話。

赤ちゃんとママ社 2021年刊の再編集

『〈きもち〉はなにをしているの？』（河出書房新社）



ティナ・オジェヴィッツ/文 アレクサンドラ・ザヨツ/絵 森 絵都/訳

やさしさ、ねたみ、はじらい、いかり、しあわせ、かなしみ、じゆう、こどく、ときめき…。“きもち”たちは、おもてに出てこないとき、なにをしているんだろう？「感情」を描いた、美しく風変わりな絵本。

『本を読んだことがない32歳がはじめて本を読む』

走れメロス・一房の葡萄・杜子春・本棚』（大和書房）

かまど/著 みくのしん/著



生まれて一度も読書したことがない男が本を読むと…？「走れメロス」などの名作を友人と楽しく会話しながら読む。「変な家」の著者・雨穴の短編「本棚」も収録。本が読めない理由も紹介する。

『逆境に負けない力をつける！ こども菜根譚』（日本図書センター）

齋藤 孝/監修



大人が想像する以上に激しい競争や複雑な人間関係のなかで、毎日を生きているこどもたち。そんなこどもたちの役に立つよう、困難に打ち勝つための人生のバイブル「菜根譚」をこども向けに超訳して紹介する。

『さみしい夜にはペンを持て』（ポプラ社）



古賀 史健/著 ならの/絵

学校にも居場所がなく、自分のことが大嫌いなタコジロー。ある日、不思議なヤドカリおじさんが、ひとりの夜をどう過ごせばいいのかを教えてくれて…。自分との人間関係を築く本。書くのが止まってしまったら開ける袋綴じ付き。

『竜之介先生、走る！ 熊本地震で人とペットを救った動物病院』（ポプラ社）

片野 ゆか/作 高倉 陽樹/絵



大災害がおこったら、ペットといっしょに、どうやって生きのびる!? 熊本地震のとき、「ペット同伴避難所」を開いて多くのペットと飼い主を救った獣医師の汗と勇気のリアルストーリー。「ペット防災」を考えるのに役立つ。

『真実の口』（講談社）



いとう みく/著

雪の降る夜、外で震えている幼い少女を交番に連れて行った中学生3人。感謝状まで贈られた彼らは、少女が見せた抵抗に違和感を抱いていた。少女を保護したことは、はたして「正義」だったのか…。

『みかんファミリー』（講談社）



椰月 美智子/著

中学1年生の美琴は、シングルマザーの母と祖母と暮らしている。ある夏、母がかつての同級生・朱美さんと再会し、彼女の家族と共同生活を始めることに。でも、朱美さんの家族には、隣のクラスの変わり者がいて…。

『快晴フライング』（ポプラ社）



古内 一絵/著

主将を交通事故で亡くし、顧問から廃部を詰め寄られる弓が丘第一中学水泳部。代表選手の龍一は「水泳部を再建して、メドレーリレーでも大会優勝してみせる」とタンカを切るが、残っていたのはダメダメな部員ばかりで…。

『あなたの言葉を』（毎日新聞出版）



辻村 深月/著

あの時、のみこんだひと言。いま感じている気持ち。その言葉はいつか必ず、あなたを助けてくれる。作家・辻村深月が自らの体験を元にまっすぐに語りかけるエッセイ集。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。

ほかにもあるよ おすすめの本

『進化する！ごみ処理とその使い方』
科学の力でごみが宝の山に変わる！？
吉川 邦夫/監修
(誠文堂新光社)

『アップサイクル！ ぼくらの明日のために』
佐藤 まどか/作 木内 達朗/装画・挿絵
(ポプラ社)

『もし、世界にわたしがいなかったら』
ビクター・サントス/文 アンナ・フォルラティ/絵
金原 瑞人/訳
(西村書店)



貸し出し中の本は予約もできます。くわしくは職員におたずねください